

噂の小現場

スタンプ券で税金が払える町

2006年9月24日放送



5年前に「合併しない宣言」をしてからというもの、行政と町民が一緒になり、財政、行政改革を行ってきた福島県矢祭町。番組でも名物町長を始めとして何度か取り上げているので、覚えている方も多いのではないだろうか。

さて、その矢祭町が何やらにぎわっているというので新コーナー「噂の小現場」の第一回として、深沢邦之が訪ねてみた。すると・・・町のあちこちに「スタンプ券を出す店」という看板が。

この町では多くの店で「お買い物100円ごとに1枚のスタンプを出し、それを280枚、つまり28,000円分集めて台紙に貼り付けると、500円分のお買い物ができる」という、他の商店街などでも良くみかけるサービスを行っていた。



町でインタビューをしてみると、かばんの中から何枚もの台紙を出して実際に支払いを行っている人に出会った。また別の場所では、会社の引き出しに大量のスタンプ券を忍ばせている!?人を発見。数えてみると総額170万円以上の買い物をしていることが分かり、一同驚くやら笑うやら。とにかくこの町でスタンプ券はすっかり市民権を得ているようなのだ。



しかし、それには特別な理由があった!なんとこの町ではスタンプ券で「納税」や「公共料金の支払い」ができるというのだ!もちろん現行法の下で「納税」は現金、証紙、認められた証券などでしか許されていない。しかしこの矢祭町では「町の職員がスタンプ券を一旦預かり、現金化作業を町民の代わりに行う」という、「ひと手間かけることで初めて成り立つシステム」を町長の号令の下、導入。もちろん「預かる」という作業がある以上、ここには職員と町民の信頼関係が不可欠。これはお互いが顔見知りの、小さな町だからこそできる方法なのかもしれない。



10年以上前から行われていたスタンプ券サービスだが、この「納税システム」がスタートしてからはまだ1ヶ月。しかしさらに利便性が増したことで、地元商店には早くも好影響を与え始めたようだ。商店街が活性化すれば、税収もあがるという、まさに絶好のスパイラル。実際に年に一回、スタンプ券で応募する有名歌手の劇場観戦ツアーバスは超満員。帰りの車中でズラッと並んだ満足げな表情は、決してスターの熱演だけがもたらしたのではないのだろうと思った。

ねえ、そうですね、五木さん!